

学ぶ

激動の2021年も残りわずか。学生スタッフが今年を振り返ってもらい、自分なりの流行語を挙げてもらった。題して「2021個人的流行語大賞」。新型コロナウイルス禍

の世相を反映したつぶやきから、学生ならではの斬新なフレーズまで。多彩な言葉から、学生生活のリアルが浮かんでくる。
(構成・杉浦正至)

by 学生スタッフ 2021個人的流行語大賞



「計画性」

就職活動や卒業論文の作成、大学の課外活動など何かと忙しかった一年。予定のダブルブッキングや、締め切りに間に合わないとい

う事態を避けるために、計画性をもって行動することがより大切だと実感しました。
(中部大四年、古川穂高)

「盛れてる」
アイドルが好きで、テレビや雑誌を見ては「最高！盛れてる！」を連発。容姿がいつも以上に美しく見える時に使う言葉です。光の当たり方や顔の角度などがポイント。自分自身も、メイク後に盛れているとテンションが上がります。



「ケミ」

「ケミ」。ケミストリー（化学反応）から転じて、化学反応が起こるほど相性がいい人同士のペアという意味で使われる言葉です。とあるアイドルグループにハマり、自分の「推しケミ」を見るのが楽しみになりました。
(名古屋学芸大一年、北村茉愛)



「けえろろ」

ダンス部に入部。約半年間、コロナ禍で活動休止を余儀なくされ、仲間と顔を合わせられないこともありました。「けえろろ（帰ろろ）」は、私たちが一緒に帰る時の合図。コロナ禍でも人とのつながりを温かく感じました。
(名古屋市立大一年、安藤詩織)

「持続可能な社会」

地球規模の課題に当事者意識を持って行動した一年。大学では教科書のリユース（再利用）活動を立ち上げました。先輩から後輩へ、学びのバトンを受け継ぐ場になりました。サステナブルな未来を目指し、土台を築きました。
(金城学院大四年、吉田光里)

「ワイヤレスって、すごい」

友人や街行く人がほぼワイヤレスイヤホンを使っている、ついに私も購入。心配性でなくすのが怖く、家用で使っていますが、オンライン通話でのが漏れた時など、会話を聞き漏らすことなく飲み物を取りに行けることに感動。
(椋山女学園大四年、榊原歌穂)



「もも録」

友達と旅行に行けなかったため、「今年の夏は桃に費やす」と決めて愛知県内で桃スイーツをたくさん食べました。お店やおいしさの記録を「もも録」と題してノートに。感動的だった桃パフェの招待券を、父の誕生日に贈りました。
(愛知教育大三年、大津桃花)



ワイヤレスイヤホンを装着した筆者